

# 西国三十三霊場巡りマラニック 第二十三番 應頂山 勝尾寺

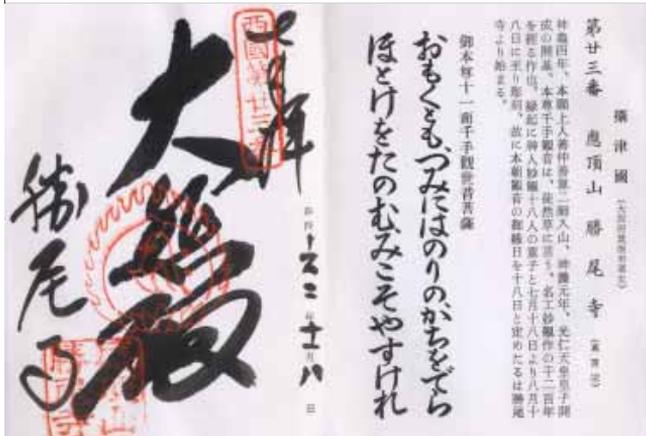
十九年十一月九日

フル百回楽走会

593

武藤 翔峰

宗派は高野山真言宗、本尊は十一面千手観世音菩薩、開基は開成皇子と善仲、善算。双子の兄弟、藤原善仲と善算が神亀4年(727年)に庵を結び修行しているとき、一人の修行者に出会う。この修行者は光仁天皇の皇子、開成皇子であったという。兄弟は般若經の書写を開成皇子に託し、相次いで世を去る。開成皇子は宝亀6年(775年)に書写を完成し、堂を建てて經を納め、十一面千手観世音菩薩を安置し、この寺を『弥勒寺』と命名したとされている。その後『勝王寺』に改名したという。勝尾寺は箕面国定公園内にあり、春は桜、秋は紅葉で有名な観光名所でもある。楼門様式で『應頂山』の額が掲げられている「山門」をくぐると、本堂など各堂宇まで参道が続いている。晩秋にはこの参道の両側の楓が見事に紅葉する。勝尾寺が勝利祈願の寺として有名になったのは、源氏、足利氏など歴代の武将が勝運祈願をしたことに由来しているらしい、大小色々多くのダルマが納められている。



勝ちダルマ

